

報道関係者各位

2022年1月21日
KCJ GROUP 株式会社

【ご報告】

中学生が Bangladesh へ持続可能な事業誘致をプレゼン キッズニアによる中学生向け対話型 SDGs ワークショップ 「コスモポリタンキャンパス 2021」レポート



(C) KidZania

※集合写真撮影時のみマスクを外しています。
それ以外は常時マスクを着用して発表会を実施しました。

こどもの職業・社会体験施設「キッズニア」の企画・運営を行う KCJ GROUP 株式会社（本店：東京都千代田区、代表取締役社長：圓谷 道成）は、2021年10月24日（日）から毎週日曜日に全4回、中学生を対象にしたオンラインでのワークショップ、コスモポリタンキャンパス 2021「“We” から始まる SDGs -日本と Bangladesh の国交樹立 50 周年へ向けて-」を開講しました。そして、その成果発表を 2021年12月12日（日）、東京・虎ノ門にある KDDI DIGITAL GATE にて行いました。

参加した中学生6名は、ペアで3チームとなり、4回のワークショップと個別でのミーティングを重ね、Google Earth を活用し、持続可能な事業を行う日本企業が Bangladesh へ進出することを後押しするプレゼンテーションに臨みました。

ワークショップ及び発表の詳細は、以下の実施概要をご参照ください。

■実施概要

● タイトル

コスモポリタンキャンパス 2021「“We” から始まる SDGs -日本と Bangladesh の国交樹立 50 周年へ向けて-」

● 講師

・ワークショップ全体監修/講師

芝浦工業大学附属中学高等学校 金森 千春先生 (Sensei with Google Earth Japan[※] コアメンバー)
 鎌倉学園中学校・高等学校 講師 柴田 直樹先生 (Sensei with Google Earth Japan[※] コアメンバー)
 ※Sensei with Google Earth Japan は、日々の教育現場で Google Earth を活用するために活動するコミュニティです。

・グローバル・パートナーシップ監修/講師

在バングラデシュ日本国大使館 書記官 (ODA ジェンダー担当) 白幡 香純 氏

・プログラム・アドバイザー

スクールエージェント株式会社 代表取締役 田中 善将氏

・ゲストスピーカー

慶應義塾大学 理工学研究科 非常勤講師 恩田 靖先生

Secretary General/Director, Japan Bangladesh Chamber of Commerce and Industries (JBCCI)
 President/Managing Director, NewVision Solutions Ltd.

(日本バングラデシュ商工会議所 役員/株式会社 New Vision 社長) Tareq Rafi Bhuiyan (Jun)氏

● Day1~4 ワークショップ内容

<p>Day 1 (オンライン) 10月24日 (日)</p> 	<p>【集う】 ミッションを理解して、プロジェクト発進！</p> <p>参加者同士で自己紹介を行い、チーム名を決め、その後、Google Earth を使用したバングラデシュクイズを行い、バングラデシュへの理解を深めていきました。</p> <p>後半は、恩田先生から、誰でも使える様々な衛星データの紹介と具体的な活用例を説明いただき、「世界を見る目」を広げることで世界の魅力や課題を発見できるという話を聞きました。</p>
<p>Day 2 (オンライン) 10月31日 (日)</p> 	<p>【学ぶ】 Google Earth で学ぶ、Google Earth を学ぶ</p> <p>金森先生より Google Earth の機能を学んだ後、実際に Google Earth を使って、参加者それぞれが通っている学校の周辺を紹介するプレゼンテーションを行いました。</p> <p>また、DAY3 のインタビューに向けて、バングラデシュに関する質問を考えました。</p>
<p>Day 3 (オンライン) 11月7日 (日)</p> 	<p>【交流する】 バングラデシュとライブで対話</p> <p>在バングラデシュ日本国大使館書記官の白幡氏より日本とバングラデシュの輸出入の品目等の経済概況や、すでに進出している日本企業について写真や動画を交えて教えてもらいました。</p> <p>そして、日本バングラデシュ商工会議所の役員を務めている Bhuiyan 氏からは、日本企業はバングラデシュのどの点に魅力を感じているのか、またバングラデシュでビジネスをする上で大事なポイントは何かを具体的な例とともに聞いた後、活発な質疑応答を行いました。Web だけでは知り得ない直接のコミュニケーションだからこそその情報を得ることができました。</p>

Day 4 (オンライン) 11月14日 (日)



【対話する】発表イメージを共有

最終発表を見据えて、グループワークを中心に行い、中間発表を行いました。

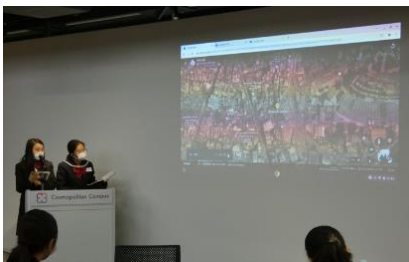
金森先生、柴田先生、バングラデシュで学校を立ち上げた経験を持つ田中氏の3名よりフィードバックをもらい、発表内容の検討と併せて出典記載などのルールなども学びました。

● Day5 発表会内容

12月12日(日)の発表会は大きく3つのパートで構成し、それぞれのパートを中学生が担当しました。最初にワークショップ全体の振り返り、次に各チームのプレゼンテーション、そしてバングラデシュと繋いだトークセッションを行いました。発表会の最後には、参加者に修了証を授与し、記念品としてバングラデシュ製のフェアトレード商品であるジュートバッグを贈呈しました。終了後も、初めて直接会った参加者同士、また、講師陣との活発な交流があり、名残惜しさを感じつつ解散となりました。

<各チームのプレゼンテーション内容：1チーム7分> ※発表ツール：Google Earth プロジェクト

チーム名：M&M



SDGs「11 住み続けられるまちづくりを」をテーマにし、経済成長と環境対策を並行して進めるため、空調設備メーカーの誘致を提案。

日本、中国、韓国のエアコンの品質を比較しクリーンなエアコンの開発、マイクロクレジットなどを活用した資金調達、オンラインでの環境教育等について発表しました。

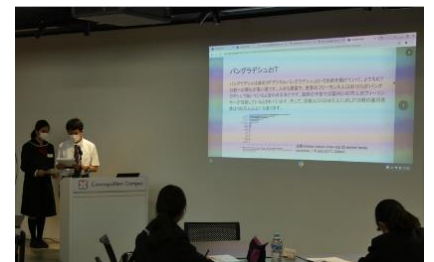
チーム名：STAND UP



SDGs「1 貧困をなくそう」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」の実現を目指し、超小型水力発電機の企業誘致を提案。

GDP の都市部と農村部の比較をし、人口集中が起きているダッカではなく、産業が農業メインで低収入の北部地区ティスタ川沿岸地域に水力発電の企業を誘致し、持続可能な社会を目指す内容でした。

チーム名：Mango



SDGs「4 質の高い教育をみんなに」「8 働きがいも 経済成長も」を目標に、政府が「デジタルバングラデシュ」を掲げ ICT 分野に力を入れていること、世界的に見ても生活費における教育費の割合が高く教育熱心という背景からオンライン教育の企業誘致を提案。

バングラデシュの実態について、各種データの比較し、さらに属性別の需要と供給をグラフなどにまとめて発表しました。

<トークセッション：約 25 分>

テーマ：異文化コミュニケーションを語ろう

ゲストスピーカー： Tareq Rafi Bhuiyan 氏、白幡 香純 氏



トークセッションでは、バングラデシュのゲストスピーカーとオンラインでつなぎ、「異文化コミュニケーション」をテーマに、「信頼関係をどう築くか」「考え方の違いへの対応」「印象的なエピソード」の3つのトピックについて中学生が質問をしました。

「信頼関係をどう築くか」ではお互いを尊敬し合うことの重要性を、また「考え方の違い」に関しては差異を受容することやフレキシブルな姿勢の大切さが議論されました。他にも、目的と意義をしっかり伝え、相手にとって適切なコミュニケーションツールを使うなどの実践的なアドバイスもありました。

「印象的なエピソード」では、環境活動を行っている NGO がスラムに住む人々にゴミの分別の啓発をするためにとった効果的な方法が話題となりました。その手法は、モスクの指導者をインフルエンサーとして位置づけ、そこから情報の拡散をしてもらうというものです。このような自然な情報の流れにより、ゴミの分別という概念が無理なく共有され、啓発活動が成功へと導かれたということです。こういった事例から、自分の価値観を押し付けるのではなく、相手の文化を理解することが異文化におけるコミュニケーションと目標の達成にとって大切なことが示されました。

<参加者の感想>

- ・ Google Earth の使い方を始め、海外の方とコミュニケーションするときに大切なことやバングラデシュの課題解決に必要なことも勉強でき、これから課題に立ち向かう時、今回学んだことを大切にしたいです。
- ・ 社会で働いている大人に、自分の提案に対して意見をいただける機会はとても貴重で楽しかったです。
- ・ バングラデシュについてデータだけでなく、対話を通してどういう場所かを知れてとても勉強になりました。ぜひ実際に機会があれば行ってみたいです。
- ・ 来年も友達を誘って、ぜひコスポリタンキャンパスに参加したいと思います。

<全体監修 金森先生からの総評>

サステナブルにできるかどうか、よく考えてアイデアを形にした発表でとても良かったです。学校や様々なことで忙しい皆さんが、「挑戦」したことにごすごく意味があると思っています。「挑戦」したからこそ、Google Earth の使い方を知り、講師の先生方とつながり、様々な視点での学びを得、違う学校の友達と共創し、新しい世界を知ることができたと思うので、本当に素晴らしかったです。

以上